

地域振興策に関する 調査特別委員会報告

地域振興をどう図っていくかを課題として、財政の現況と今後の見通し、町総合振興計画に掲げられた事務事業の課題と今後の振興策などを調査するため、議員全員を委員とする地域振興策に関する調査特別委員会を平成20年6月に設置しました。

委員会では、調査項目を5項目に分類して調査研究を行い報告書にまとめ、平成22年3月定例議会で薄井和平委員長より調査の報告を行いました。

報告書の概要は次のとおりです。

【調査研究事項】

町財政状況等に関する調査

町全体の振興策に関する調査

少子高齢化による人口減少からみた課題及び振興策の調査

農業・商業・工業・観光などの産業振興からみた課題及び振興策の調査

(仮称)馬頭最終処分場に関する調査と振興策の調査

【委員会の開催状況】

- 第1回 平成20年6月12日
- 第2回 平成20年8月28日
- 第3回 平成20年11月25日
- 第4回 平成21年7月14日
- 第5回 平成21年8月5日
- 第6回 平成21年10月9日
- 第7回 平成22年2月18日

【先進地調査】

- 平成22年1月27日 茨城県笠間市及びエコフロンティアかさま
- 【地域振興策に関する町への要望】

本委員会は、今回の調査結果をもとに次の点について町に要望する。

長引く景気低迷により多くの町民が疲弊している。町民一人一人が生活に明るさを取り戻すには、町民の生活に即した地域振興策が必要である。また、新たな地域振興策を進めるには、健全な財政の確立が必要であり、不要不急事務事業の

不断の見直しなど、更に行財政改革を進められ、相応の財源を確保されたい。

合併5年目を迎え、平成22年度は町総合振興計画前期計画の最終年度となり、後期計画の策定作業が進められるが、産学官連携による町づくり、町民参加による協働の町づくりの推進が強く求められている。計画策定にあたっては、アンケート等意向調査のほか、集落座談会や各種団体との意見交換会などを開催され、町民の意見、提言など生の声を振興計画に反映されたい。

小口北沢地区に産業廃棄物が不法投棄されてから20年目となるが、依然として放置されたままであり、廃棄物の適正処理が望まれている。町総合振興計画にも掲げられているように、議会としても県営最終処分場での解決を強く望むものである。

地域住民や関係者との合意形成を図られ、一日も早く最終処分場の建設に着手されるよう県に要請されたい。また、今後、基本協定に基づき、県の支援による様々な地域振興策が図られ

るものと思われるが、その内容を明確にされたい。

【終わりに】

本委員会では、一応の結果をまとめるに至ったが、約一年半の調査や関係課との協議により、現状と課題、今後取り組むべき施策等について、ある程度掌握できたが、具体的施策を見出すまでに至らず終了となり、所期の目的を達成できなかったことは否めない事実である。

本委員会の調査は、この報告で一応の区切りをとるが、町民一人一人が希望と誇りを持って、安心した生活を過ごせるようにするため、町民の生活に即した地域振興策を進めなくてはならない。

本年5月には改選により新しい議会体制となるが、地域振興策の調査検討や県営最終処分場の建設促進の問題は、町の重要な課題の一つでもあるので、議会と執行部が協力し合い、新たな振興策を見出すため、今後も継続して取り組む必要がある。

新議員決まる

任期満了に伴う那珂川町議会議員選挙が4月18日に行われ、次の15名の方々(50音順)が当選されました。

- 阿久津武之(60) 無現
- 石田 彬良(67) 無現
- 岩村 文郎(59) 無現
- 大金 市美(54) 無現
- 小川 洋一(66) 無元
- 川上 要一(60) 無現
- 小林 盛(59) 無現
- 佐藤 信親(57) 無新
- 鈴木 和江(63) 無現
- 鈴木 雅仁(36) 無現
- 塚田 秀知(67) 無新
- 橋本 操(60) 無現
- 福島 泰夫(59) 無現
- 益子 明美(51) 無現
- 益子 輝夫(60) 共新

改選後の初議会は5月6日に開催されました。

正副議長及び議会構成等については、「広報ながわ6月号」に掲載を予定しています。